



秋厚労ニュース

NO1811号

2017年12月11日
秋田県厚生連労働組合
秋田市山王5-4-2
TEL 018(864)3341
FAX 018(864)3349

住民の望み

お産できる地域

鹿角

鹿角は「お産ができない地域」になってしまうかも。ただでさえ人口が減っているのに……。若い人に戻ってきてほしいのに……。地域は、今、危機感でいっぱい。「鹿角の医療と福祉を考える市民町民の会」は、「鹿角の産婦人科を守る会」とともに、住民集会を開催することにしました。

来年3月4日に地域を挙げての住民集会開催

鹿角では、関連3大学(秋田・弘前・岩手医科)からの「通知」により、今年2月から「里帰り分娩」が出来なくなりまして。さらに、この先、3大学は「産科施設の集約化」の考えを提示しています。

「産婦人科医師の「引き上げ」を意味するこの件に関して、去る11月21日の団体交渉で、経営者は「大学からは、引き上げるとも、残

産婦人科医師の「引き上げ」を意味するこの件に関して、去る11月21日の団体交渉で、経営者は「大学からは、引き上げるとも、残

るとも言われていない」と答えています。

「鹿角の医療と福祉を考える市民町民の会」が各地で集めた情報を総合してみると、①大学から「かづの厚生病院」への産婦人科

もし「お産が出来ない地域」になれば、人口減少に官民で立ち向かい、手厚い「子育て支援」を誇る、鹿角・小坂にとって重大事件。地域の将来がかかる大事に、地元が揺れるのは当然で、「議会報告会」の参加者もかつてなく増えています。

地域の将来をにかけて住民が立ち上がる

常勤医師の派遣は困難と見るべき、②大館市立病院では「集約化」を見据えて「受入態勢の準備」を進めている、③時期は不明だが、大館市立病院の受入態勢ができた時点で「かづの厚生病院」から産婦人科常勤医師を引き上げる、などの全体

像が浮かび上がってきます。地域の医療が「後退」するとき、「事実が住民の耳に届くのは、いつも最後」というのはよくある話。かつての「精神科」がそうであったように、今、産婦人科が大きな危機に直面していることは間違いないと思われま

件に関して、ずっと話し合いを重ねてきました。去る11月28日、第142回幹事会において、当面、来年3月4日(日)に「住民集会」を開催することが決定。12月7日には、この件で「鹿角の産婦人科を守る会」との打合せも行われました。

住民集会は、お産が出来ない地域になると何が困るのか、住民の思いを皆で共有することが最大の目的。また、その集会で住民に事態の説明をするよう、県・市町・病院にも働きかけることになりました。

住民集会

2018年(平成30年)

3月4日(日)

10:00~12:00

鹿角市「コモッセ」講堂

お産ができる
鹿角を望む

何が困るのかを共有

「市民町民の会」は、この

「お産が出来ない鹿角」をコンセプトに、地域を挙げて、さらに大きな運動が始まるうとしています。